

第4版にあたって

本書は、1990年に初版を出版して以来、すでに17年が経過した。また、この間2000年に改訂第3版を出版したが、これからも7年が過ぎた。

近年の科学技術の進歩は著しく、本書が目的とする医療分野においてもその進歩はめざましいものがある。画像診断領域ではフィルム画像は姿を消し、デジタル画像へと変貌するとともに、コンピュータを使った画像処理技術の進歩により病変の発見率も著しく向上している。特にMRI、CTの画像技術の発展には目を見張るものがある。一方、放射線治療領域においても強度変調放射線治療(IMRT)が出現し、きわめて精密で高度な技術を駆使することで、放射線治療成績も著しく向上するようになった。さらに核医学検査領域ではPETが広く普及して、癌の発見率が飛躍的に向上している。

このような医療技術の進歩に伴い、当然のことながらそれぞれの分野での新しい学術用語も急速に増加してきている。そのため第3版出版後も「補充用語集」を別刷挿入して、新しく出現する用語に対応してきたが、何分にも別刷であるため、使い難い辞書として、読者にずいぶんと迷惑をおかけしてきた。一方、本書の読者層にとって大変関心の高い、「診療放射線技師学校養成所指定規則」が2001年に大幅に改正され、カリキュラムが大綱化されるとともに、2003年には診療放射線技師試験の出題基準、いわゆるガイドラインが公表され、これに伴う新用語の見直しも必要不可欠となった。

そこで今回、これらの問題を解消するため、本書の全面的見直しを行い、古い用語は削除するとともに、新しい用語を加え、すでに出版されていた補充用語約500語を加えて、全用語数約7,500語としての本書に改訂した次第である。特にきわめて進歩の著しいMRIやCTに関する用語もかな

第4版にあたって

り充実させたつもりである。

本書は診療放射線技術学を学ぶ学生諸君にとっては、国家試験合格のための必携の書となるであろうし、またコ・メディカルと呼ばれる医療従事者の方々にとっても日常の診療業務に大いに役立つものと思ひ、ぜひとも座右の書としていただきたいものである。

最後に本書の改訂にあたり、参考にさせていただいた図書の関係各位、ならびに共立出版(株)の瀬水勝良氏をはじめとする関係者の方々に対して深甚なる謝意を表する次第である。

2007年1月

編 者

まえがき

近年の医療は、医学ならびに医療機器の急速な進歩・発展により、人類に大きな恩恵を与えた。なかでも医療へのコンピュータの導入、超音波・磁気共鳴など新しいエネルギーの利用も進みつつある中で、今や医療に従事する者にとっては、ますます高度にして幅広い知識・技術の習得が迫られている。

医用放射線に関する分野は新しく広がりつつある学際領域でもあり、成書は逐次出版されているものの、専門辞書については非常に乏しい状態であった。とくに教育関係者の間において、その必要性が10年前から久しく望まれていた。その間、放射線機器の急速な進歩もあり、出版計画を一時見合わせていたが、最近に至り関係各位の強い要望により、今回ようやく出版の運びとなった。

用語の選定は、それぞれの学協会などの最新のを基準とした。専門領域を中心に、物理・化学などの基礎となる分野はもちろん、最新のCT、DSA、MRI、SPECT、超音波等の検査技術、装置関連用語、また医療技術者に必要とされる臨床医学、法律、JIS、コンピュータ関連、ICRP 勧告等の用語をも包括して、およそ5500ワードを収集している。

執筆者は主に、長年にわたり診療放射線技師教育に携わる経験豊富な教育関係者により構成されており、基礎分野は医用放射線技術との繋がりを十分に考慮するとともに、臨床分野は画像診断、放射線治療、核医学との関連にも言及する方針とした。したがって、本書は医用放射線技術に携わる方々の日常業務に大いに役立つことはもとより、初めて教育を受ける学生諸君の日常の勉学や試験勉強にも活用して頂けるものと信じている。本

まえがき

書が医療の向上のためにいささかでも役立つことを切に願うものである。

編集開始以来，終始ご協力，激励を賜った方々，ならびに引用および参考にさせて頂いた文献・図書の関係各位に対し深く感謝するとともに，出版にご尽力頂いた瀬水勝良氏をはじめとする共立出版(株)の方々に深くお礼申し上げます。

1990年3月

編 者